（大正十年四月二十一日 第三種郵便物認可）

昭和十五年十一月二十日　磐城毎日新聞 〔水曜日〕　第五千九百七十七號 〔一〕

十九日夕刊

磐城每日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢 □郵稅 金十五錢 □一部賣價 金二錢
□廣告料一行 金六十錢 □雜報欄一行 金九十錢 □場所指定一行 金一圓增
□電話(平)七八六番 □振替口座仙台一〇八五六五
福島縣平市田町十六番地 發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯印刷人 岡田弘成

隨筆 龍膽の花さく頃

志貴桂石

〔三〕

藥師寺は、ここから數町南へ行つたところにある。

そこへ行くまでの、或る百姓家の門先に、帶のやうな細長い溝があつて、その時候はづれのあやめが二三輪、つゝましく咲いてゐるのを見、わたくし達はあまりの嬉しさに思はず大聲で叫んだ。すると何事が起きたのだらうと、その家の中から五。六歳ばかりの子供が飛び出して來て、わたくし達を物珍らしさうに眺めてゐた。そのあどけない顏が、今でもはつきり思ひ出される。

藥師寺は、法相宗の大本山である。

天武天皇の九年、皇后の御病氣御平癒のために、天皇は、金剛藥師像を作り給ひ、大和高市郡白橿にあつた藤原宮を寺として、その佛像を御安置あそばされた それが藥師寺の草創である

その後、元正天皇の御代に至つて、現在のところに移されたもので金堂、講堂東院堂、佛足堂、いづれも天平時代の粹を集めてゐるが、三重塔、即ち東塔は、日本に二つとない珍らしいものであるといふ。

佛寺志に

「高さ十一丈五尺、方五間九輪の銅柱に銘あり、舍人親王の筆なりと傳ふ。三重塔の樣式なれども毎重各二層となり、大小六層互交す」と、書いてある。

これと同じ塔が、西の方にもあつたが、今は殘つてゐない。

その塔の日蔭になつたところに、龍膽が二。三輪淋しく咲いてゐた。

×

昔の道をすつかり忘れてしまつてゐる、わたくしは打詰りの道とも知らずた步いて農家の庭先へ出てまごついたり、田畑の間に、立往生したりしたのは一再ではなかつた。やつとバスの通ふ奈良街道に出たが、秋日射しが強く、皆はすつかり汗ばんでしまつた。

ことに、汗かきのわたくしは、羽織を脱ぎ、着物の衿や端折て瀧のやうに流れる顏の汗を拭ひながら、郡山の町へば入つた。

こゝは柳澤氏十五萬石の舊城下で、昔から金魚の名産地として知られてゐるが最近、赤膚燒といふ陶器が盛んに賣り出されるやうになつた。質は一寸長門の松本燒に似て、灰白色に黒斑のくすりを施した風雅なものである。

むかし、正保年間に京都に野々村仁清といふ工人があつて 彼は、韓人の佛阿彌といふ者から陶法を學びまた陶工の宗舊の門に入つて後に一家を成したが、畫をよくするところから、その陶器に畫圖が多い。その彼が此處に來て窯を開き、士民に製法を敎たもので、それが今の赤膚燒であるといふ。

11月20日

――

△鈴木侍從長勇退し百武海軍大將後任決定發令△秋田縣尾去澤貯水池ダム決潰で下流部落民多數犧牲者出す（昭和十一）△上海方面陸海將兵に勅語を賜ふ△大本營設置さる△我陸戰隊福山鎭を占領（昭和十二）

○

彼を知り、己れを知れば百戰殆からず　孫子

偶會

○鳥渡る海荒れたれど蒼きかな　瑛女
○句筵ぬけて夜學の鐘を打ちにゆく　同
○夜學子に聲かけつ病母いねてあり　同
○渡り鳥峽田の畦に仰ぎ立つ　果秋
○鳥渡る空へ子たちもろ手擧ぐ　同
○野のはてに鳴る鐘きこゆ渡り鳥　峨々
○夜學子を叱る師の聲とほりけり　同

連續講談 異說赤穗浪士（ゐせつあかほろうし）

別題「異說赤穗義士」「赤穗誠忠錄」

〔61〕

桃川若燕 講
磐城木齋 畫

僞計

「ハイ」

お桃はお庭に入ると、椽側にゐるのはかじ田彌左右衛門

「其方か、蟹藏の家內だといふのは……」

「ハイお初にお目にかゝります、私は蟹藏の許嫁の者で桃と申します」

「ウン何の用で來たか」

「少々旦那樣にお願ひ申したい事がございまして參りました」

「ウム」

「恐れ入りますがお人拂ひを願ひたう存じます」

「ナニ人拂ひをしろと、ウムよしよし大切な用事でもあると見ゐるな、コレ〳〵彼方へ行け」

召使の者は庭の切戸を閉めて行つてしまふ。

「サア誰も居らん遠慮なく申したがいゝ」

「旦那樣妾は殘念でなりません、どうぞ夫の無念を晴らして下さいますやう、これをお願ひに出ましたのでございます」

「ウーム、只事ではないな何の無念を晴らし呉れと申すのだ」

「實は旦那樣、夫の蟹藏は昨夜非業の最期を遂げましてございます……」

「ナニッ蟹藏が死んだと、昨夜當方の屋敷で酒を呑み歸宅致したのだが夫が死んだとは……」

「丁度四ッ過ぎでございました、金塚村の政右衛門と云ふ者が參りまして二言三言話して居りましたが間もなく誘はれる儘に家を出て行きました」

「ウン〳〵」

「それから二刻近くも、いまに歸つて來るかと待つて居りましたが戻つて參りませんので心配の餘り堀切の土手まで探しに行きますと土手下に倒れてゐる者がございます、驚いて提灯を上げて見ると夫カニ藏が紅に染まつて往來中で苦しんで居ります、どうした事かと介抱しながら尋ねますとかじ田樣に忠義を盡したが仇になり如治、金塚・紫雲寺四ケ村の者に憎まれて斯う云ふ譯になつたと申しました、殺した奴は金塚村の政右衛門だ、此深傷では迚も助からないから翌朝はお前からかじ田樣に申上げてどうか仇を討つて呉い、こればつかりが賴みだと云ひ乍ら息を引取りましてございます どうぞ旦那樣、夫カニ藏の敵を取つて下さいまし」

「フーム不埒な奴はその政右衛門といふ奴だ、よし〳〵敵は討つてやる、然し表向きこれを討つ譯にはいかぬが、その者は何れに居るか」

「堀切の土手から參りますと直に判ります」

「然うか、では今宵松山とも相談して行つてやる、それにしても、其方案内をしますか」

「ハイ妾も夫の敵でございますから是非御案内を致します」

「今宵其方は何れにゐるの――」

「旦那樣斯うなさつては如何でございませう、妾が紫雲寺潟の手前堀切の土手に提灯を持つてお待ちして居りますから夫れを目當にお出で下さいまし」

「では提灯を目當に參るから――コレは少いが持つて行け」

と紙に包んで幾許かの金を出す

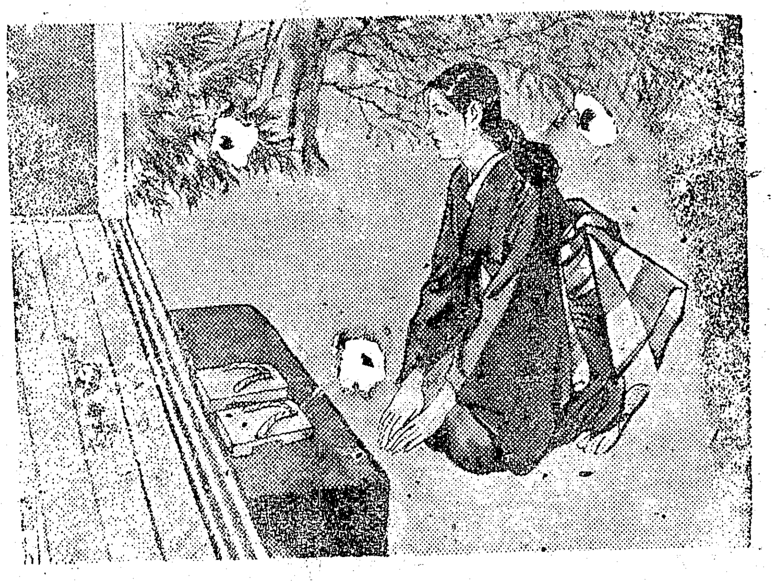
「有難う存じます」

「では旦那樣何分宜しくお願ひを致します」

「ア、よいとも、かじ田が立派に引受けカニ藏の仇は討つてやるぞ――」

欺かれるとは露知らぬかじ田彌三右衛門、早速松山牛太夫を呼び

「松山氏、實は是々だが、貴公今宵御同道願ひたい」



七・七禁令ニ協力シマセウ

Refinetex
リファインテックス

◇純毛各種取揃◇

秋	冬
セビロ三ツ揃	セビロ三ツ揃
○停¥60.00ヨリ	○停¥60.00ヨリ
○停¥130.00マデ	○停¥130.00マデ
オーバー	オーバー
○停¥55.00ヨリ	○停¥55.00ヨリ
○停¥130.00マデ	○停¥130.00マデ

國民服（中衣共）仕上り五〇圓ヨリ百拾圓マデ

大崎洋服店
平銀座 電96

肺・肋膜・心臟・胃腸の弱い方に
血となり肉ともなる……

本場 生スッポンの生血・生膽を御勸め致します

平市六丁目通り
生スッポン特約養鼈 さかいや商店
養鼈場 平市正月町一番地
スッポン黒燒、むし燒粉末もあります

これは便利！
△手を荒さず
△絹、毛織物、木綿、スフの生地を傷めず
△つけてたくだけで洗へる

㊫マルミ粉末石鹼
製造元 平市材木町二

一般貨物運搬
時代に即應せる新陣容を以て迅速低廉に御取扱ひ致します
福好工業合資會社
代表者 強口唯七郎
自動車部
電話二八二番

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 体温器 寒暖計
秤ノ取締 堅系・鑑 精致シマス。
關內藥局
電話四〇番

手付金で我がものになる賣宅地
平第三小學校前約 一萬五千坪 五千坪內
金より物の時代
安全の土地
一、常陽銀行、七十七銀行、平庶民金庫との間に購入資金融通の途がついて居ります。
一、直に名義書き替へが出來ます。
大小各口の御相談に應ず

申込所
驛前 阿部石炭部 電話三七番
四丁目 和泉屋旅館 電話二一七番
田町 蓮沼龍輔 電話七八七番
五丁目 馬目武之助 電話五五八番

內臟外科 整形外科 胃腸 性病
內臟外科 腦脊髓病科 外科
整形外科 レントゲン科 理學療法科
內科 胃腸病科 肛門病科
花柳病科 皮膚科 泌尿器病科
醫學博士 松村亨
醫學得業士 松村鐵郎
平市南町 電一〇七
松村醫院

吸入用酸素
呼吸困難治療として早くおすゝめ下さい
流行感冒豫防に（マスク）各種あります
病氣豫知に（體溫器）各種あります
平市古鍛冶町一〇（縣社下）
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

產婦人科
井坂醫院
平市田町・電五五九
見習看護婦入用

外科一般
內臟外科 肛門病科 皮徽科 專門
泌尿生殖器科（婦人科性病科）
（入院隨意）
平市字鎌田町
白土醫院
電二七九
看護婦及見習看護婦募集

外科、內臟外科 エッキス光線科
院長 齊安徹
平市田町
入院隨意
安齊醫院
電話四七五番

新体制の指針

全町民に下意上達を示す

四倉町で積極的運動

四倉町では下意上達の新体制運動を全町民に徹底させ眞に下から盛り上る力を涵養すべく『大政翼賛運動』に關する基礎的事項を詳細に亘つて印刷に附し全戸に配布常會の運營等に大きい効果を擧げゐる同町發行の趣意書全文次の如し

大政翼賛運動は

國民を一丸とする

新体制下に行れる大政翼賛運動は近く全國民を打て一丸とする一大國民運動となつて展開されんとして居る此畫期的な新体制の重大時局に當面した内務省は國民の悉くを共一定の區域に於て結び付け共國民を共組織体の全細胞とする國民組織とも云ふべき部落常會町内會等整備要綱を發表し之れを全國道府縣に完備せしむることゝなり内務大臣訓令を以て地方長官に共組織を命したのである此組織体が新体制に於ける國民全休を横に一貫した下部組織であつてこの町内會の組織体とこの活動に依て行はれる常會の運營とがこの下部組織における重要な役割を努むることである

常會の單位は

細胞組織

而して町内會は町又は丁目を地域としてこれを組織し其下に十戸乃至二十戸内外を單位とする隣組と云ふ實踐を組織し其常會を開く譯で町常會は町内會長と、其の市内の各種團体長其の他有識者を以て開かれる、斯くして町内會を單位細胞として全町を地域とする下部組織となるのである共組織体の下に開く常會は上級下級と各常會との連絡を必ず圖り即ち町常會の決議實行事項を下級の常會に移し町内會の常會の意見が上級の常會に反映すると共に茲に上意下達下意上達の道が拓かれるものである

下部隣組と

常會の運營

組織体の道開かる

斯樣なわけであるが茲に注意しなければならぬことは町内會隣組は之の下部組織体であつて常會は共組織体の活動に依て起る運營であると云ふ事です故に町内會隣組と云ふ組織体と共の活動に依て開かれる常會とはどうゆうものであるか共意義を簡單に説明する

隣り組の意義

一、町内會と隣組は隣保相扶相互致化の機閑である

一、町内會と隣組は上意下達下意上達の傳達機關である

一、町内會は町に於ける自治行政の補助機關である

一、町内會と隣組は現下國民の國策協力態勢を强化する共同訓練機關である

一、町内會と隣組は共共同生活必要なる經濟的機構の發動機關である

月例會を開く

常會の運動

一、常會は町内會隣組が毎月一定の日に開く集の會である

一、常會は向ふ三軒兩隣の人々が集て互に語合ひ睦み合ふ所謂親睦機關である

一、常會は各戸一名必ず出席し萬民翼賛の誠を盡す會である

一、常會は上からの傳達を理解せしめると共に國民の聲を纒めて上へ申達する會である

一、常會は通知や物の配給を戸毎に行ふ手數を省き一所の集に裁く會である

一、常會は無理を言ず互に理解し合ふ事

一、常會は敎へる會でなく語り合ふ會であり亦議決の會でなく實行の會である亦批判の會でなく勸善の會である

一、常會は各種の會合の外に開くものでなく各種の會を纒める爲の會である

一、町内會と隣組は共共同生活の道場とすれば常會は住民相互の實地訓練である

煙草を止めて

國婦へ寄附

感心な今田ミサさん

石城郡赤井村赤井字常住今田ミサ(四)さんは去る十三年春長男清一君が出征したのを機とし好きな煙草をプツツリ止めこれを貯蓄して積り積つた金十圓五十錢を此の程同村國防婦人會に五圓五十錢、青年團に五圓寄附村民を感心せしめた

泉驛の輸送貨物

三萬五千噸超過

年末を控へて業者は恐慌

日本水素工業小名濱工場建設以來泉驛の貨物は著しい激增を示し加へるに小名濱特産品の鰮頬刺しが四百萬圓を超へる大量出荷を見てゐる泉驛構内擴張に努め辛ふじて輸送の緩和を圖つて來たが、年末の繁忙期に當つて今後六ヶ月間地方鐵道施設工事に使用する砂利一萬噸、炭殼五千噸の運搬に加へ日素關係の硫安一萬八千噸が輸送を豫想され、從來より超過する貨物が約三萬五千噸の多數に上るので、鮮魚や加工魚類など出荷最盛期に如何にして圓滑に輸送するかに驛當局が頭痛鉢卷の態であり、一方業者方面でも年末を直前に輸送能力の激減には大恐慌を來し、これが對策に腐心してゐる

凱歌を擧げた

〃洋酒黨〃

新規格で酒場が悲鳴

亨樂方面に斷が降つて日本酒を制限されて以來上戸黨は一時悲鳴を擧げ洋酒に走る傾向にあつたが、今度は洋酒にも新体制が命ぜられ規格決定、平市内のカフエーも十五日から新らしい値段で賣り出すことになつた、新規格は相當値段が低下し洋酒黨に凱歌を奏するものであるが反對にカフエー側が悲鳴を擧げ洋酒には一寸手を出せないと云ふ處、此處ではカフエーの方で客を締め出す形である

新規格

▲ウヰスキー（本格ウヰスキー）ブランデー（本格ブランデー）・ラム酒、ウオツカ、アブサン以上30CC金五十錢（一合より六杯取りの場合）

▲セリー、マデラ、ベルモツト、甘味ブランデー、ポンカン、カクテル、シヤンパン、其他のリキユウル酒40CC金五十錢（一合より四十杯取りの場合）

▲果實酒又は其の他の雜酒180CC金五十錢（一合の量）

平果樹組合で

運送店表彰

親切な輸送に報ゆる

平市果樹組合では東京市秋葉原驛前丸山運送店が組合の果實輸送に當り親切丁寧な取扱ひを爲しこれが爲組合の果實が市場に於て名聲を擧げるに至つたと丸山運送店主内藤角治氏を表彰することに成つた

華やかに開く

美術の殿堂

縣出身の畫作出揃ふ

本縣に於ける美術の殿堂福陽會美術展覧會は既報の如く平市日本畫展覧會長青沼鋒太郎同協賛會長野崎滿藏氏ら主催の下に愈々十二月一日から三日間市公會堂に開催することになつたが會期も切迫したので吉田五平、吉田虎之輔兩市議西山惠一氏らが準備を進めてゐるが地元からは平市中西一路（磐女敎諭）齋藤亮一其の他各畫伯をはじめ力作を出品すべく馬力をかけてゐる、福陽會幹事角田磐谷畫伯は來る二十九日來平出品畫の種類並に飾りつけを行ふ筈

尚地方出品の入賞畫に對し青沼市長から市長賞を贈り地方藝術の向上を圖ることになつた

時局商業界の先驅

報國隊研究部の活動

積極進取の商法と、修養並に体位向上で錬磨する

商業界の新体制に即應し廣告研究會から百八十度の轉廻を見た『平商業報國隊』は表看板を塗り替へると同時に精神的にも計畫經濟の核心を研究して一路商業報國に適進すべく十八日夜サロン森川氏宅に研究會を開き月次恒例を決定今後將來へ對處するの研究は論を俟たず、修養に、或ひは体位向上の運動にあらゆる方面に亘つて非常時局を擔ふ商店青年の道に適進することになつた

△毎月三日、十一月三日明治節の佳辰に發會式を擧げた記念日として、市内商店全般と合同午前五時三十分縣社子鍬倉神社々前に於て朝禮式を擧行する

△毎月十一日、修養團平支部に合流、毎月十一日午後六時半から九品寺に於て隊員の修養會を開く

△毎月五の日、五日、十五日、二十五日の月三回研究會を開いて商業上のあらゆる部門に亘り討議研究を行ふ

青年部發會式

平商隊馬目君出席

平商業報國隊では十八日午前六時から神宮外苑の青年會館に開かれた日本商業報告隊青年部發會式に馬目誠一君を代表者として派遣同日祝電を贈つた

軍用馬査閲

石城郡下の十五年度軍用保護馬査閲は左の日割で施行される事となつた

▲十二月九日勿來町▲同十日小名濱町▲同十二日四倉町

寒さは續くが冬の氣構へはまだ

測候所から『風邪に御注意』

十一月も中頃を過ぎ、寒波の襲來からか昨日今日めつきり寒さが增し、雪でも降りそうな空模樣で名物の空ツ風が一しほ肌にこたへるやうになつた、小名濱測候所に伺ひを立てると「此處二、三日は寒さが續く、お風を召さぬやう…」と特に注意があつた

三陸沖合にあつた七百五十八ミリの低氣壓が東へ移動この後を追ふ揚子江附近の七百七十ミリの高氣壓が本邦へ次第に勢力を伸した爲十八日朝一時から六時までの最低氣温は八度九分で西から吹きつける空ッ風の影響を受け寒さがぐつと身にこたへてものである、この寒さは二、三日續くがまだ冬の氣構へではない

奇篤な

内鮮の坑夫

兵隊さんへ恤兵金寄附

石城郡赤井村日曹赤井炭鑛坑夫半島生れ金城勝雄(三六)君は採用以來模範坑夫とされてゐたが此の程〃自分が内地に來て斯して働く事の出來るのも皆兵隊さんのお蔭です、僅かではあるが何かの御役にたてゝ下さい〃と係長を通じ平署へ恤兵獻金を寄託した

歸還勇士慰問

内御村の盛大な催し

石城郡内郷村役場では十七日午前十時から同村内鄕座に今事變勃發以來の村内歸還軍人を招ぎ盛大なる慰安會を催した

底曳漁業好成績

一日の水揚げ三、四百圓

石城七濱を賑はす機船底曳網漁業は開禁以來何れも順調な水揚げを見せ小名濱港二十余隻の漁船は一日平均四百圓から百五十圓の水揚して好成績を收め初刀魚漁期より鰯漁季節へ移る過渡期として賑つてゐる、一方切上げ期の迫つた秋刀魚漁は十八日豊間龍寶丸が入港、五百四十貫を水揚げ十七割半の最高取引を最後に漁場が漸次南下する爲今後は大した期待は掛けられぬ模樣である

小名濱町會

町税賦課其の他決定

小名濱町では昨十八日午前九時より役場に町會を開き次の議案を附議した

△十五年度小名濱町民税賦課の件△水道使用條例中改正の件△小學校敷地擴張の件

小名濱外五町村の

產業報國會

公益優先に乘り出す

江名、小名濱、豐間、鹿島、玉川、泉等三町三ヶ村の製材工場、鐵工場、水產工場を一丸とした產業報國會結成式は十七日小名濱町吉田屋旅館に擧行、公益優先、產業報國を誓ひ力强い發足を見た、會長には三浦警部補を推し各部長も次の如く決定した

△製材國井定夫△鐵工倉乗常八△水產水野德次郎

四倉獵友會

廿六日總會開く

四倉警察署管内二町四ケ村の獵友會は二十六日午後一時より同署會議室に開き軍部へ獻納する野兎毛皮蒐集に關し協議する

四倉校の兒童が

廢品回收

四倉小學校では昨十八日より二十日迄三日間の廢品獻納週間に兒童を介し廢品の回收を行つてゐる

小名第一分團で

青年團の事務所建設

小名濱警防團第一分團では今度事務所を分團長宅西側に建ることになり廿日早朝團員を召集して建前を執行

唱歌會

石城敎育部會

第二方部の唱歌會は廿一日小名濱小學校に六校の訓導が參集して開く

利用價値昂る

中小業者の金融機關（下）

庶民金庫の今昔

◇二十五周年を迎へ基礎愈固る◇

昭和四年一月大谷組合長辭任に依つて現市長青沼鋒太郎氏組合長に就任、銳意組合の改革刷新に意を注ぎ、組合の大衆化に努め公的存在の認識を深めた結果と當時地方銀行相次いで閉鎖し金融機關欠如などの關係から組合の利用者急增、昭和七年末には組合員八百六十六人、出資口數四千六百四十五口、貯金總額十六萬一千九百餘圓、貸付二十九萬七千餘圓に膨張するに至つた

昭和七年十月青沼組合長が町長に轉出、理事諸橋久太郎氏組合長に就任、專務理事星野清吉氏と協力事に當つたが昭和九年一月逝去した爲現專務理事諸橋敬一郎氏これに代つて專務理事に就任するに及んで全職員と協力、市內中小商工業者と產業方面に接觸を密にし、他面勤儉貯蓄を奬勵、且つ金融界恐慌時代以來の固定債權を整理保全に努力を傾注、これが整理に當つては日掛、月掛等償還貯金を奬勵して返還の安易化を期し、或ひは債務者に產業資金を新たに貸付け更正せしむる等回收の方途を講じ、他面不良債權の積極的な回收を斷行、固定貸付の大部分を整理したる結果信用愈々昂まり、昭和十二年末には組合員一千名を突破、出資口數五千六十四、これに對して貯金五十四萬圓と累增貸付金も三十八萬圓に達し内容外觀共に整備、昭和十三年縣下の產業組合大會に於て優良組合として表彰を受けてゐる、其の後商工倉庫を借入れして組合員多年の要望であつた商品擔保貸付を積極的に開始、或ひは替爲業務を取扱ふなど市民の金融機關としての機能を一層發起に努め今日の業積を擧げるに至つたものである、

本年十月末現在の營業狀態は組合員數一千二百十三名、出資口數六千二十六口、貯金總額百四十萬二千三百余圓、貸付總額三十七萬二千五百余圓に達し、貯金額は斷然縣內第一位を占め、利用價値から見ても平市民にとつて無くてならぬ大きな存在と成つた。

平市慶弔錄

（婚姻）▽平市上平塗眞似井二た番地根本房義(五〇)さん秋田縣雄勝郡院内町下馬一二六高橋ヨシさん(六八)▽平市仲間町七二番地岡時勝(五六)さんと栃木縣宇都宮市一の澤町三〇七番地北島キヌ(三四)▽平市字小太郎町二四大平那治(七〇)と平市大字中平鑵字細田二一番地吉田サツさん(五〇)▽本籍平市字胡廊澤一二一番地中村輝雄姉マサヨさん(三九)と東京市城東區龜戸町六丁目西牧尊牟(四六)

（出生）▽平市仲間町七十二番地本籍勿來町鑵田廿八番地岡時勝(五六)二男時夫さん▽平市彌宜町五番地本籍赤井村不動堂十三番地佐々木德三郎二男金三さん▽平市鎌田町三十二番地村上清四女晃子さん

天氣豫報

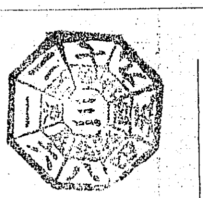
今晩　北の風晴

明日　南の風晴れ一時曇り

二十日

滿潮　前六、二〇　後八、一五

干潮　前一、五五　後一、〇〇



十一月二十日　水曜
丁卯
赤口
定
壁
十月二十一日

▲一白　歩調正しければ思ふ彼岸に達し得らるべし▲二黑　口舌は勿論のこと取引にも爭なき樣すべし▲三碧　人を責めず我を張らず心大なれば自ら無事▲四綠　一利を得て第二の利を夢みる事なく退くべし▲五黃　自力本意を以て捗らぬともあせらず進むべし▲六白　在り來りの業には支障なきも移轉旅行は凶▲七赤　位高ふして祿少し位高ければ更に損を招く▲八白　平凡無爲の内に自からめをふき出す日なり▲九紫　飮食さへつゝしめば餘事は大抵都合好く行べし

病室增築、手術室完備

產科
婦人科
醫學博士　五十嵐雄三

平市新川町「電話三六九番」

食事。
喫茶。
酒場を兼ねた。

レストラン　サロン

營業時間
開店…午前十時
御食事は午前十一時より、
閉店…午後十一時限り、

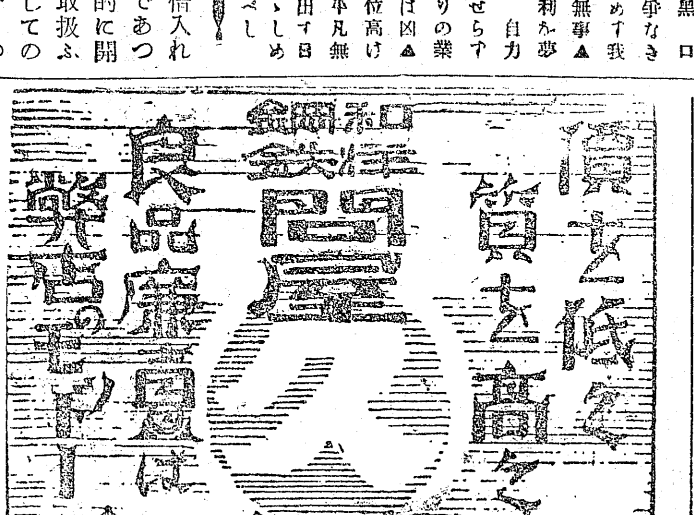
平市銀座街
電話五九二番

平病院（平市元共濟病院跡　電話六四一番）

院主　院長　醫學博士　鈴木定藏

内科　小兒科　院長　鈴木定藏
内臓外科　一般外科　皮膚泌尿器科　副院長　高橋俊幸
レントゲン科　物理的療法科　院長　鈴木定藏
藥劑科　部長　吉本孝平

診療時間　毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に從事す（急患は此の限りにあらず）



根本產科婦人科醫院

平市南町
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番

（入院隨時）